

file 04

社会活動

いり え さと み 入江里美さん

NPO(特定非営利活動)法人
くまもと子どもの人権テーブル
プログラム担当

PROFILE

1959年熊本市生まれ。1982年から養護教諭として勤めるが事故に遭い95年に退職。97年くまもと子どもの人権テーブル参加。



子どもたちに伝えたい
「自分は大切な存在」だと

NPO法人
くまもと子どもの人権テーブル

熊本市南区田迎5-7-6
TEL : 080-1709-5499
E-mail : k-table@mvb.biglobe.ne.jp
URL : http://www.5c.biglobe.ne.jp/~k-table/

1997年	1995年	1991年	1988年	1982年
人権テーブルで活動し始める	くまもと子どもの人権テーブルで活動	退職	第2子出産	第1子出産
			養護教諭として仕事を始める	

輝きの軌跡

入江里美さんの
キャリアストーリー

取材担当
熊本大学2年
衛藤涼花

一子どもへの暴力防止プログラムを提供していると聞きました。具体的にどのような活動をしていますか。

入江 子どもの危険回避力や安全力を高めるためのプログラムを提供しています。被害防止の知識やスキルだけでなく、被害を受けにくくするためには「自分を大切にする」という意識づくりが大切なので、この点を伝えていきます。また、おとなを対象に、子どもへの対応力の向上のための講座や研修会も行っています。

一活動を始めたきっかけは？

入江 子どもが小学生の時に、人権テーブルのプログラムを受けたことがきっかけです。参加したことで、子どもへの暴力防止や子どもの人権が守られることの大切さを多くの人に伝えたいと思うようになりました。活動をする前は養護教諭として学校現場で働いていたのですが、働き続けることが難しくなり退職しました。しかし、子どもに関わることがしたいと思いこの活動を始めました。もうひとつ、大きな事故に遭って、いろんな方々に命をつないでもらったので、直接ではないですが社会への恩返しのような気持ちもあります。

一「自分の存在の大切さ」を多くの人に伝える中でのやりがいはほとんど

ころにありますか。

入江 プログラム提供後、「子どもたちが安心・自信・自由の権利は自分自身で守っていいんだ」と気づいてくれ、また親御さんも「子どもの自尊心や生きる力を大切にしていきたい」と言ってくれることです。活動は1回きりなので、プログラム提供後の様子も気になりますが、今は、伝えることを優先しています。また、子どもたちに出会うことで、エネルギーももらっています。

一活動を続けていて、社会の変化を感じますか？

入江 子どもや女性に対する悲しい事件は増えていて、状況は悪化していると思います。子どもの時に大切にされずに育った大人が子どもに暴力を振るう、負の連鎖が続いています。この連鎖を絶つためにも、「自分の存在の大切さ」を伝えていく必要があると感じています。

自分を大切に
自分の力を信じ、
さまざまな経験を
積んでください。

